

1 記念館の利用の承認等に関する業務

● 来館者数の動向

第1四半期の来館者数は、3,647人で、前指定管理期間の同四半期来館者数平均値(7,084人)と比べ、3,437人、約48.5%の減であった。令和3年4月28日から6月20日の期間は新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置が実施されたことで、例年来館者数が多いゴールデンウィークの来館者数が伸びなかったことが影響していると考えられる。

しかし、ゴールデンウィーク中(5/1～5/5)に実施した旧川喜多邸別邸(旧和辻邸)の特別公開については、5日間で365名の方が来場した。また、天気の良かった5月2日、3日、4日は展示鑑賞のみで一日平均90名の来館者があり、コロナ禍以降、昨年度の12月1日無料開館日を除き、一番多い来館者数だった。

月別来館者数:1,126人(4月)、1,574人(5月)、947人(6月)

2 記念館の施設及び設備並びに資料等の維持管理に関する業務

● 施設・設備の維持管理

- ・ 通常の設備保守・点検等が適切に実施されている。
- ・ 館内環境について適宜報告があり、記念館の環境維持に配慮した施設管理を実施している。

● 資料等の維持管理

- ・ 施設の特性を考慮しつつ、適正な維持管理が行われている。

3 記念館の事業の企画及び実施に関する業務

● 上映及び展示

- ・ 展示事業では、3月19日から引き続き、通常展「日本映画名優(バイプレイヤーズ) 列伝」では、1950～70年代を中心に、日本映画の黄金時代を支えた名優(＝バイプレイヤー)たちの仕事を紹介し、昨年実施した企画展「映画ポスターの革命～ATG(アート・シアター・ギルド)の挑戦」のアンコール展示も行った。また、6月25日からは、毎年各地で開催される国際映画祭を、資料とともに紹介している。
- ・ 上映事業は、今期は平均鑑賞者数が1回につき30名を越える作品(三島由紀夫vs東大全共闘)もあったが、全体的にはシネマウィークの作品を含め、まん延防止等重点措置等の影響から全体的に鑑賞者数が伸びなかったと考えられる。しかし、今後も映画館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドラインに基づいた感染拡大防止対策を講じつつ利用者の観覧機会を確保して欲しい。

● 調査、研究及び情報提供

- ・ 通常展「映画祭のすゝめ ぐるり映画ポスターの旅」に係る関係者への取材や資料等の調査研究を行った。
- ・ 特別展「田中絹代」のための資料調査、資料下見等を行っている。

● 広報及び宣伝等

- ・ 市広報に展覧会や上映内容などの情報を掲載しているほか、市役所本庁舎内のモニターや広告パネルによる広告も利用し、より多くの市民等に向けて広報及び宣伝等に努めた。
- ・ SNSの活用、取材対応など、更なる集客に向けた記念館の宣伝強化に努めた。

● その他の事業

- ・ シネマウィークは、ゴールデンウィーク中の実施ということもあり集客が見込まれていたが、まん延防止等重点措置等の影響により来館者数は伸びなかった。(5月5日に予定されていたトークイベントも中止となった。)

4 その他市長が定める業務等

● 事務処理

- ・ 例月の指定管理業務報告書等は期日までに提出されている。
4月分:5月14日、5月分:6月14日、6月分:7月14日提出

● 事故・苦情対応

- ・ 4月16日 『華麗なる一族』後半を上映中、お客様より音がほとんど聞き取れないと苦情があった。スタッフが劇場内に入って確認したところ、映写機へのフィルムの掛けミスにより音がクリアに出ない事態となっていた。そのため映写を中断し、お客様に説明したうえで、1巻分(約7分)のフィルムを巻き戻して上映を再開した。結果15分ほど終映時間が遅くなり、3名のお客様が時間の都合で帰られ、その方々には「特別映画鑑賞引換券」をお渡しした。
- ・ 5月3日 旧和辻邸の特別公開時、お客様による靴の取り違えが発生→靴がなくなってしまった方には当館で代替の履物を用意、翌日から靴を入れるビニール袋を設置して対応。(Twitterでも呼びかけたが申し出は現在までない。)
- ・ 6月9日 記念館前の関係者・障がい者用駐車スペースに無断駐車があった。車両の駐車に関して注意喚起のマークの見直し、対策を検討している。
- ・ その他、事故や苦情等があった際には、内部で情報共有を行い、速やかに対応策を検討し、対応している。

● その他

- ・ キュレーターによる上映後の上映解説や展示解説を実施することにより、観覧者の満足度を高めるとともに、リピーターの獲得に努めている。
- ・ コミュニティシネマセンター「こどもと映画」の配信事業についてオンライン打合せに参加し、他施設との円滑な連絡相談体制の構築を図るとともに記念館スタッフの能力向上に努めている。
- ・ 5月1日～5日 旧川喜多邸別邸(旧和辻邸)特別公開(1日:45名/2日:65名/3日:104名/4日:104名/5日:47名 合計 365名)

5 全体評価

- ・ 今期の展示事業及び上映事業は、前指定管理期間の同四半期来館者数平均値(7,084人)と比べ、約48.5%の減であったが、令和2年度第4四半期(2,445人)からは、約149.2%の増となっており、来館者数は回復傾向にある。今後も新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じながらの運営は続いていくことが見込まれるため、オンラインを活用した展示や上映作品の解説など、実施事業の見直しや積極的な情報発信等を通して更なる来館者の確保に努めて欲しい。
- ・ 昨年度、新たな取り組みとして実施した、バリアフリー上映や家族割引などを継続し、様々な方の鑑賞機会の確保に努めて欲しい。
- ・ 施設の維持管理などの業務に関しては、細やかな報告が徹底されており、施設管理者に対して市が求める水準に達している。

令和3年度第1四半期判定評価表

【鎌倉市川喜多映画記念館】

評価項目	判定点	第1四半期 評価結果	減点
1 利用の承認等に関する業務			
来館者数の動向			
入館者数が前指定期間の同四半期の平均値と比較して80%以上の水準にあるか(不可抗力を原因とするものを除く)	5	○	
2 記念館の施設及び設備並びに資料等の維持管理に関する業務			
施設・設備の維持管理			
定められた点検が実施されているか	5	○	
不具合箇所を放置せず、必要に応じて修繕を実施しているか	5	○	
庭園、進入路などの手入れはきちんとされているか	5	○	
資料等の維持管理			
資料等の維持管理は適切に実施されているか	5	○	
3 記念館の事業の企画及び実施に関する業務			
上映及び展示			
計画どおりに企画展が開催されているか	5	○	
予定どおり映画上映が実施されているか	5	○	
調査、研究及び情報提供			
映画関連資料等の調査・研究を行っているか	3	○	
研究の成果を公開しているか	3	○	
その他必要な業務			
展示・上映以外の事業は適正に実施されているか	5	○	
来館者ニーズの把握・反映につとめているか	5	○	
4 その他市長が定める業務等			
事務処理			
決められた期日までに報告書は提出されているか	5	○	
市との連絡調整はきちんとされているか	5	○	
市と協議を行った事項は確実に実施されているか	5	○	
固有の銀行口座で適正な会計処理を行っているか	10	○	
苦情対応			
来館者や近隣との間のトラブルに適正な対処をしているか	5	○	
苦情・要望への迅速な処理、市への報告はされているか	5	○	
その他			
研修等自己啓発の努力がされているか	3	○	
災害時の対応ができるよう、準備はされているか	3	○	
個人情報適切に管理されているか	10	○	
減点の計			0

実施されている場合・・・○ 実施されていない場合・・・×

減額率

減点の合計	減額率
10～15	5%
16～20	10%
21～	20%